

第 29 回「戦争と医の倫理」の検証を進める会（{進める会} 世話人会（概要報告 案）

- ◇日 時 2014年7月20日(日) 13:00~16:00
- ◇場 所 保団連・4階会議室
- ◇参加者 赤羽根巖・西山勝夫／代表世話人、蒔昭三（スカイプ）、小島莊明常任世話人、住江憲勇事務局長、香山リカ（終了後、西山・刈田両氏とともに懇談）、刈田啓史郎、末永恵子（スカイプ）、武田勝文（スカイプ）、松井英介、村林彰／各世話人（事務局）是枝一成、木村徳秀、杉嶋正信、小林耕治

◇議長に住江事務局長を選出した。

◇報告及び協議事項

1. 世話人会関係者の異動

大阪府保険医協会の杉嶋正信事務局参事（前事務局長）が、世話人会の事務局として就任後の初の参加があり挨拶があった。

2. 第 28 回世話人会（14. 4. 27）会議報告の確認について

一部字句訂正の上、了承。

3. この間の主な活動と今後の対応について

（1）次期医学会総会での企画実現に向けた取り組み報告

- ① 「医の倫理」実行委員会取り組みの概容（『京都保険医新聞』ほか）
- ② シュナイダーDGPPN 元会長の講演キャンセルについて
- ③ 第 3 回（緊急）実行委員会代表・副代表・事務局長会議 概要
- ④ 「医の倫理」第 3 回実行委員会議事概要メモ、ほか
- ⑤ 垣田実行委員長の横倉日医会長への懇談要請「多忙」お断り（7/18 回答）
- ⑥ 帯木蓬生（ははきぎほうせい）氏の特別講演（4/12・京都）承諾
- ⑦ 日本外国人特派員協会での記者会見について（メールは事務局が編集）
- ⑧ 関連した報道など

上記項目について報告がありそれぞれ了承された。

とくに②シュナイダーDGPPN 元会長の講演キャンセルについては、シュナイダー元会長の招請に直接関わってこられた西山代表世話人が資料にもとづく詳細な経過と対応について配布資料を引用しながら報告を以下(要旨)のように行った。

シュナイダー元会長とは、進める会パネル集（12年10月発行）への写真提供の依頼（12年4月）から関係が始まった。DGPPNの追悼集会の紹介と記事・写真掲載が実現して以来、ドイツでの活動が日本でこのように取り上げられたことに関係者一同喜んでおり、「進める会」の活動に対しても積極的な評価を示していた。14年5月末には西山代表世話人の訪独を歓迎し、現地で温かく迎える旨の返事もあった。そこへ突然、全く予期しない訪問受け入れ拒否、招請講演キャンセルの通告があった。中止の理由は、追悼集会では、謝罪表明はしていないのに、謝罪と日本語訳されたこととされている。しかし「進める会」は、『日本精神神経学会』誌の「謝罪表明」の表記通りに用いたのであり当会や、当会関係者に矛先を向けるのは筋違いであることなど、シュナイダー元会長中止に至る論拠については、ことごとく反論し、論破した。また、a special political party にかかわる issue には一切関係しないなど、予断に満ちた結論や、シュナイダー元会長個人というより「our council」の判断（ヴェストファーレン州医師会の役員会としての決定であると後日判明）

だとの記述もあり、何らかの圧力が加わったことは間違いないとした。関西の「医の倫理」実行委員会は、6月9日緊急の代表・副代表・事務局長会議を開催し、シュナイダー元会長へ「進める会」との連名で返書を出した。返書には、講演準備作業の中止を結論としたこと、西山氏の意見は、両会の見解と一致していること、シュナイダー元会長の誤解が解け、遠くない将来に今回の中心となったテーマで交流できることを望む。(なお、返書に対する返事は今日まで何も無い。)

討論では、以下のような発言がなされた。

松井世話人：今回のキャンセルの背景には、大きな国際的な政治圧力が働いていると見るべきではないか。自身が体験した例として、IPPNWの国際的な場での関連文書の翻訳をめぐって、そのような力が働いていると確信した。在米の医師と称する「スーパーバイザー」が必ず訳文をチェックし書き直させることが通例になっている。

刈田世話人：欧州のネオナチの台頭の影響が背景にあるのではとも考えられ心配だ。

⑤日医への懇談要請については、住江事務局長会から、横倉日医会長より7月18日、正式に面談お断りの回答があったとの報告がされた。また、くしくもシュナイダー元会長のキャンセルを知ったその日のメディファックスに横倉会長ら日医幹部が5月下旬、ドイツ医師会総会に出席した記事が載った。TPP関連で共同の取り組みを日医要請した際に、盛んに政権党とのパイプを強調していた。保団連などとは共に進まない姿勢がある。

⑥特別講演については、住江事務局長からシュナイダー元会長の代わりに候補として、帯木蓬生氏（軍医に関する資料を20年かけて収集、731部隊についても強い関心をお持ちで、日本医師会主催第一回日本小説大賞ほか多数受賞）が受諾されたとの報告があった。野中広務元自民党幹事長、作家の森村誠一両氏が、諸事情により承諾いただけなかったが、『全国保険医新聞』の帯木氏の福岡県保険医協会会員、作家・精神科医として憲法9条を大切にとのインタビュー記事を紹介しつつ、帯木氏が、会の趣旨に賛同され4月12日の京都での講演を承諾されたことが報告された。

⑦日本外国特派員協会での会見については、窓口をお願いしている西山代表世話人より、現在同協会の返事待ちとの報告があった。進める会の作成中の4か国パネルのダイジェスト版を作成した（密度の高い議論が予想され、参考資料が不可欠との認識から）ので会見許可が出次第、特派員協会に日本語版とセットにして進呈したいとの提案があった。2015年の医学会総会に向けた実行委員会の活動を垣田さち子実行委員会代表が、戦争医学犯罪の歴史と戦後今日までの医学界・医療界のかかわりなどを吉中実行委員会副代表・常任世話人が報告を予定している。なお、記者は自由に参加できるが記者証が必要。保団連、民医連の英文説明も準備する。

⑧関連報道として、京大医学部の基礎医学記念講堂完成に伴い、「医学部資料館」に展示された731部隊への医学部の関与などの展示が撤去された問題で、マスコミにも取り上げられているとの紹介や、吉中常任世話人の執筆記事の紹介、京都府保険協会としての取り組みの報告があった。刈田世話人からは、『日中友好新聞』7/25最新号に、随想「医学界と戦争犯罪」が掲載されたとの報告があった。

(2) パネル展状況について

- ①奈良県保険医協会・奈良市戦争展での抜粋展示（14年7月24日～27日・奈良市生涯学習センター）
- ②日本看護歴史学会 第28回学術集会での展示（14年9月6日（土）・7日（日）岐阜大学）がそれぞれ準備中との報告があった。
- ③刈田世話人から、日本科学者会議総合学術研究会（9月12～14福岡）で、パネル展示や、パネル冊子の販売を検討したいとの提起があった。

④反核医師の集い（11月1～2福岡）でのパネル展示等も具体化を検討する。

（3）パネル集の翻訳版の作業と発行予定などについて

組み版がほぼ完成した中国語（明治大学分は翻訳済みだが、組み版なし）と韓国語（明治大学部分は割愛）及び英語版（翻訳は基本的に完成）の組版作業については、諸任務のため事務局による作業が困難であり、印刷業者に組版を含めて複数見積りの上、作成依頼する。但し、韓国での出版物を5冊程度寄贈していただければ、日本での作成は不要とし、韓国での普及は達せられる。PDFでのホームページ上のアップで閲覧は可能であり、紹介普及に支障はない。

なお、明治大学よりワード組み版に転換したデータの提供を5月22日に受けた。

新たに東海共同印刷に費用見積もりをした。今後相見積もりをとり、9月中の発行をめどに進めて行く。ドイツ語版については東北大窪先生が、ご多忙中、夏休み中の完成を約束頂いたとの刈田世話人からの報告があった。英語翻訳を担当された小島常任世話人からは、組版完成の際必ず訳者校正が必要とのご指摘を頂戴したとおり、実施する。

○西山代表世話人からのパネル集訂正の提案 について

西山代表世話人より、日本語版パネルについて、これまでの作成や議論の経過が世話人会議事録のダイジェスト資料をもとに詳細報告された。特に第5部、医の倫理については世話人会で意見の一致がえられず、倫理学専攻の世話人らがそれを理由に、2011年に進める会世話人を辞退した。そのため、出版等の期限との関係で急遽西山代表世話人のリーダーシップで仕上げた経緯があり問題点を整理した上での内容上の見直しが必要との説明があった。

以下の2点を議論の上確認した。

①明らかな字句（第5部の表現を含む）の誤りは、今後正誤表を出す。パネル展示で修正可能なものはパネル印刷により修正する。

②第5部については、西山代表世話人が、「検討チーム」を発足を目指し、土屋貴志（大阪市立大准教授）世話人を中心にこれまでの5部の責任者であった山口常任世話人や関係世話人とも相談し、担当事務局の明確化をはかる。ただし、2015年4月の医学会総会を目標期日とした拙速な問題解決は避けることを確認した。「検討チーム」が発足した場合は、世話人会は適時その活動報告をもとめ、必要に応じ審議を行う。

経過上、進める会世話人を辞退された方々に再度の加入依頼はあり得ない。

今後の議論の方向性について、意見交換があり、第五部でのこれまでの論議を踏まえ、赤羽根代表世話人、刈田世話人から、731部隊と今日への連続性、今日の諸事象との関連性について論議を深める重要性が指摘された。

住江事務局長：ここ20～30年の生命倫理の議論は、移植医療から始まっている。その点、土屋世話人が731問題・戦争責任問題の視点をお持ちなのは重要だ。

松井世話人：、長期的な、次のステップとして問題提起があった。井戸川克隆前双葉町長は、われわれは新しい形の核戦争の最前線にいると述べた。これは、ABCC、731部隊が共同で犯した犯罪の歴史にさかのぼる、医の倫理の問題と関係する。国連の諸機関が放射線の被曝影響を過小評価する立場は、まさに医の倫理が問われる問題であり、嘘と隠ぺいがまかり通っている。医師たちが、福島被災者の自殺や、家族の分断に果たしている役割を考える必要を提起したい。

小島常任世話人：福島の問題は大きな問題である。医療現場では大学と製薬会社の癒着問題がある。小保方氏のスタップ細胞問題は、成果主義に突っ走ろうとする医学会にとっても医の倫理を考える上での重要な問題提起だ。

住江事務局長：ここ数年の情勢の急激な変化を踏まえて、医の倫理の問題をとらえる様々な角度が重要であり、メンバーについても議論が必要だ。

小島常任世話人：医療関係者以外を巻き込んだ議論が大切で、原発被災の福島では、宮城・岩手に比して震災関連自殺が多い。ジャーナリストなどは関連データをもっていると思われる、講師をお願いするなどそのような情報を医師・医学者はもっと知る必要がある。命を大切にすることを第一に、隠ぺい体質から抜け出さなければならない。

(4) 会計報告

○2013年1月1日～2014年1月31日までの決算報告案について

前回世話人会の確認事項として、本日報告の予定であったが、諸般の事情により作業着手が遅れたことと、支出項目の整理に手間取り、最終的に本日までに内部の複数チェックまで完了していない。担当事務局としてお詫びするとともに、来週中を目標に作業を終え、代表世話人・事務局長の点検を経て、進める会世話人会メーリングリストにアップする提案が了承された。

決算報告については住江事務局長は、今後の進める会の財政方針上不可欠であり、事務局として責任を持って処理するよう付言した。

4. 日本医学会総会に向けた取り組みや今後の当会の在り方について

- ① 東京で企画の検討。全労連会館の仮予約（2015年4月10日（金））を含め、次回世話人会までに各自案を持ち寄る。東京独自の取り組みが重要。
- ② 全国各地でのパネル展示行脚について、住江事務局長より、大阪での医の倫理シンポジウムの挨拶で、自身が全国津々浦々でパネル展示を進めるよう訴えたことを想起し、是非、民医連、保険医協会が協力し進めてほしいとの提案があった。
杉島事務局員（大阪協会）是枝事務局員（民医連事務局次長）からは、これまでの、看護師・医師の集会での展示の実績などを踏まえ、具体化を検討したいとの意見が出された。
- ③ 昉昭三常任世話人から「今後の『進める会』についての私見等」について文書提案があり、秘密保護法と医の倫理学習会の提案も含め今後意見交換していくこととなった。
- ④ 8月10日（日）「医の倫理」実行委員会（関西）午後1時～4時（京都協会）
京都・仙台・金沢・和歌山・予備の5カ所を結ぶスカイプ会議予定

5. 今後の世話人会開催予定、その他

- (1) 次回開催予定9月21日（日）午後1時～4時
- (2) 西山代表世話人より、著作『戦争と医学』文理閣 2800円（著者割引あり）。松井世話人より、著作『「脱ひばく」いのちを守る』花伝社 1200円。ともに税別の紹介があった
- (3) 今回、初のスカイプ会議により参加者増加をはかったが、通信不良のため参加が困難であった。今後グルーピング機能活用等の改善に努め、参加者増を図る。

<当日配布資料>

以上